

会 議 録

日 時	平成 24 年 11 月 29 日（木） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
会 場	目黒区役所第 17 会議室
出 席 者	委員）石川委員、市田委員、伊藤委員、上田委員、倉本委員、西村委員、早野委員、 矢野委員、渡島委員
	区側）都市整備部長、みどり公園課長、環境保全課長、環境計画課長、 事務局 4 名、東京大学 1 名、中外テクノス㈱ 3 名
傍 聴 者	無
配 布 資 料	資料 1 第 1 回策定検討委員会資料集 資料 2 いきもの 80 選（区報平成 24 年 7 月 25 日号） 資料 3 目黒区野鳥のすめるまちづくり計画（抄） 資料 4 いきもの気象台観察ノート 資料 5 生物多様性国家戦略 2012-2020
会 議 次 第	1 委嘱状交付 2 開会 （1）会議の公開及び議事録の取扱いについて （2）委員長・副委員長の選出 （3）委員長・副委員長あいさつ （4）委員自己紹介 3 議事 （1）生物多様性地域戦略策定に向けた区の考え方について （2）目黒区における生物多様性の現状について （3）目黒区における生物多様性の課題について （人といきものが共生する街づくりを目指して） 4 第 2 回目黒区生物多様性地域戦略（仮称）策定検討委員会に日程について
会 議 の 結 果 及 び 主 な 発 言	1 委嘱状交付 都市整備部長： 各委員に委嘱状を交付 都市整備部長からの挨拶 区側出席者の紹介 2 開会 （1）会議の公開及び議事録の取扱いについて 本会議は公開とすること、会議録は公表すること、写真撮影することをご了承いただきたい。 （全員容認 傍聴人なし） （2）委員長・副委員長の選出 委員長に伊藤委員、副委員長に倉本委員が選任された。

(3) 委員長・副委員長あいさつ
委員長、副委員長からのあいさつ

(4) 委員自己紹介
各委員の自己紹介

3 議事

(1) 生物多様性地域戦略策定に向けた区の考え方について
担当：みどりと公園課長・・・資料1（1-1～1-3）について説明

【質疑応答】

質疑事項なし

(2) 目黒区における生物多様性の現状について
担当：みどりと公園課長・・・資料1（2-1～2-10）について説明

【質疑応答】

上田委員：資料1-3に生物多様性の状況の変動の想定図があるが、生物多様性をどのように計るのか？現状に対し何がどう変わったのかをどのように測定するのかをお聞かせいただきたい。

みどりと公園課長：

資料2-9にあるとおり、昭和58年頃「身近な自然調査」以降、定期的に生物の状況調査を行っている。このような過去の調査と比較しながら現状を把握していく。また、50種の指標生物について住民参加で調査しており、一定の変化がつかめると考えている。

委員長：生物多様性の指標は、全世界レベルでは種の生息域や個体数の状況、保護区の面積の増減などが提案されているが、確定したものはない。COP10ではこれらの指標を複合評価しても悪化傾向にあるとの見解であった。

日本では「日本の生物多様性総合評価」（JBO Japan Biodiversity Outlook）というものがつくられている。目黒区は都市であるため、これらを参考にしながら、どのような指標がよいかを委員会のなかで議論していきたい。

市田委員：生物多様性は幅が広いが、生物がどれだけ少なくなっているか、あるいは環境の悪化の度合いにより評価するということか？

委員長：複数の指標により現状を把握し、その原因の分析や改善策を検討し、戦略を策定することとなる。

事務局：資料4 いきもの气象台観察ノートの60ページ以降に、1995年以降の生き物の観察記録を掲載している。区民からの情報に基づいているため、実際の状況との差はあるかもしれないが参考になるのではないかと。

委員 長：これだけの種についての長期間のデータは現状や傾向の把握に非常に重要である。実際のデータに基づいた分析が可能になると思う。

矢野委員：資料 2-2 に「武蔵野の風景」とあるが、どのようなイメージを描いているのか？

みどりと公園課長：

資料 4 いきもの气象台観察ノートの 44 ページにある駒場野公園のイラストのような、クヌギやコナラの雑木林がある程度残っている、昔ながらの風景をイメージしている。

矢野委員：目黒区周辺の本来の森林の姿は常緑樹林であり、これも 1 つのふるさとの風景であると思う。常緑樹林は林内が暗く生物多様性にとってマイナスとなる面もあるが、雑木林だけではなく、鎮守の森のような常緑樹林も加えてよいのではないか。

上田委員：自然を回復するということに、どの自然に回復するのかという問題もある。

委員 長：人間がいない状態に戻すことはできないので、人間にとって住みやすい環境も考慮に入れて今後の議論を進めたい。

(3) 目黒区における生物多様性の課題について

(人といきものが共生する街づくりを目指して)

担当：みどりと公園課長・・・資料 1 (3-1～3-4) について説明

【質疑応答】

副委員長：資料 3-1 エコロジカルネットワークは、陸、水、空を利用する生物によって異なると考えられるが、全て同じように取り扱うのか？特定のものに着目するのか？

みどりと公園課長：

現段階では決まっていない。従来考えでは、資料 3-1 にあるように、移動性が高い鳥による利用という視点で緑の配置を考えていた。

副委員長：モザイク状の緑の配置を考えてきたということか？

事務局：考え方の 1 つとしてあった。移動性の低い生物については別途考える必要があると考えている。

委員 長：鳥を保全することで他の生物も保全できるという考えということか？

事務局：当時の計画は、街づくり計画に鳥を指標とした生物の保全の視点を取り入れたものである。そのため区全体のエコロジカルネットワークの形成などは想定していない。この委員会でご議論いただきたい。(資料 3 参照)

委員 長：生物多様性としては全ての生物を取り扱うべきであるが、観察しやすいものを指標とせざるを得ない。区がこれまで指標としていた鳥以外に指

標として想定されるものがあればご提案いただきたい。

上田委員：ミクロの生物の世界では大木1本にも生物多様性がある。このような多様性の保全も重要であると思う。

早野委員：緑に触れる機会の少ない生活をしている方関心のない方にも関心を持ってもらいたい。土地を持たない方もいるため、机の上で植物を育てるなどの発信も必要ではないか。

委員 長：都市では豊かな自然がある訳ではないので、啓蒙や教育などが重要になる。これが、郊外との違いとなる。

市田委員：生物多様性を保全するうえでは、自然の豊かさだけでなく人と自然の触れ合いが重要となる。野菜や魚を買うといった消費行動にも生物多様性は含まれており、都市生活者がどのように自然の恵みを楽しんでいるかを感じることも含めてほしい。

委員 長：普段の生活が世界の生物多様性に直結していることを分かっていただくというのも都市部における戦略のキーポイントとなる。

石川委員：鳥をとおして地域の自然や環境に視野を広げることも可能ではないか？

委員 長：視野を広げるためには知識が必要となるため、観察会や講習会など自然に触れる機会を増やすことにより、そのつながりを理解してもらうことが重要となる。大学としてもそのような場の提供に協力できればよい。

西村委員：自由が丘の緑道に鳥が増えているが、養蜂による人為的な影響とも考えられる。人がどう手を加えるべきかが難しい。

委員 長：都市部では、生物の入れ替わりも起きており、人為的な影響の良否は、増えた鳥の種類や、減少した種がないかなどを慎重に分析する必要がある。

矢野委員：植物園ではアオオサムシ等の地表性の虫やこれを捕食するヒキガエルなどの普通種が減少している。生態系の上位に位置するカラスが多いことの影響が懸念される。

早野委員：資料2-6に民間企業による調査事例がある。このような取り組みをしている企業があることを区がアピールし、他の企業に普及させてはどうか。

委員 長：企業のCSR活動は活発である。区が事例収集することも区民の意識を高めるうえでは重要ではないか？

事務局：目黒区内にも屋上緑化や公園の生物調査をしている企業やNPOと共同して学校で授業をしている企業もある。

渡島委員：子供にも自然のつながり（鳥と虫の関係など）を理解でき、実際の活動につながるようなものとしたい。未来を担う子供達に理解させることが重要である。

石川委員：子供に体験し、気づいてもらうことが重要なので、小学校も公園を活用

してはどうか？

副委員長：会議に傍聴人が来るよう、さらなる PR が必要ではないか。

委員長：多くの区民へのアピールという観点から、区民向けの講演会も有効である。委員や区と共に開催できればよい。

市田委員：生物多様性に代わる言葉を作れないか？

委員長：今回策定する戦略にも、一般の方に分かりやすい言葉でタイトルを付けてもよいのではないか。

候補として「自然のめぐみ」が挙げられるが、これでは生物多様性の全てを表現できない。委員会の場でも検討したい。

早野委員：生物多様性国家戦略のタイトルはよい。

委員長：生物多様性国家戦略とタイトルを併せる必要はないので、何か良いものがあれば使いたい。

石川委員：資料 3-4 にある「人といきものが共生する街づくり」というのもよい。

委員長：「街づくり」など都市型であることをアピールする言葉が入っていた方がよい。

上田委員：これまで目黒区が使っている「いきもの」という平仮名での表現がよい。「生物」では硬い印象を受ける。

委員長：事務局でもどういった言葉を使うのがよいかを検討いただきたい。仮称でも決めることができれば、区民にも委員会の検討内容が理解しやすくなると思われる。

みどり公園課長：

表現方法は事務局でも検討するが、委員の方からも案をご提案いただきたい。

上田委員：大きな屋敷が取り壊され庭の緑が減少する事例もあり、個人宅の庭に依存している目黒区の緑は危機的な状況にあるといえる。

4 第 2 回目黒区生物多様性地域戦略（仮称）策定検討委員会に日程について

事務局：第 2 回策定検討委員会は目黒天空庭園の視察を兼ねて以下の日程で行う予定である。

日時：平成 25 年 4 月 13 日（土）14 時から